

桜蔭俳話会 平成二十四年 冬・春

第一〇四回通信俳句会 応募作品の選句結果

選句数 八句、特選には◎をつけて下さい。

締切り 二月二十五日(土)

6点②梅日和赤幅合せる夫の居て	梅乃	8点①真似ごとに終ふも安堵の鬼は外	友子
3点 暇顔の札売る巫女や五日過ぐ	友子	2点 春光や波頭のサーフア一豆の如	ヤエ子
8点①生きてゐる痛みのひとつ木の芽雨	守	2点 継いだ名は「勘九郎」とて浅き春	佳史
4点②独楽廻す爺の手先に円らな目	与史	7点 生き急ぐやうや日暮の牡丹雪	守
2点 回る回る開ける炎の御水取	佳史	4点 春の雪地に着くまでが夢の中	みさ
7点①天を穿く力のありき冬木立	真三	1点 福寿草凍てる土から芽をもたげ	忠夫
9点②石地蔵胸一線のひび寒し	秀一	頭下げる義父に笑いてストーブ向け	美紀子
5点 厳冬や古道の樗どんと立つ	ヤエ子	4点①建国日靴新しく下ろしけり	秀一
3点①冬の星ホームページに撃有り	則敏	4点 コンパクト開けば春空小鳥来る	梅乃
6点②棟上げや幣 ^{ぬき} ひらひらと春の鶯	貞勝	2点 雪下ろすテレビ画面や皆老いて	与史
1点 紅白という華やかな落椿	みさ	9点③鬼やらいどよめきつれて力士来る	貞勝
1点 凍りつく蛇口見つめりボスの猫	幸	4点 よき日てふ今朝の占ひ春立ちぬ	友子
吾が提誓ひし管や元旦に	幸枝	春雨も時には烈しく狂いけり	幸枝
6点①冬空や泣きごと言えぬ明るさよ	溪水	6点 豆の香の甘き指先味噌を搗く	幸
1点①医者嫌いの義父をなだめしのつべ汁	美紀子	若人やブログを閉じし冬座敷	則敏
10点 海からの風にまつすぐ野水仙	忠夫	2点 ブランコを押す子の笑みのはじけたり	ヤエ子
ツイッター寒雀居る故郷へ	則敏	3点 しがみつ枯葉や老ひのひとりごと	溪水
2点 極寒に霜柱もなき乾土かな	幸枝	1点 児童等の下校姿や日脚伸ぶ	真三
1点 春寒や海抜示す散歩道	与史	ぬくぬくとたいぬくぬくと昼炬燵	田鶴子
7点①乗飲むだけの日課や寒の入	秀一	着ぶくれてグラウンドに立ちまます	文枝
3点 元気なる証しに交わす年賀状	忠夫	7点①薄凍てて赤と緑の航路灯	明美
5点①初針や卒寿の叔母の鼻眼鏡	幸	3点 雨戸明け余寒の朝に驚きぬ	文枝
3点 針供養供養もされぬ人の教	守	3点 老ひも若きも一人居や冬籠り	明美
8点 野猿凍て羅漢の像に塊れり	佳史	紅の枯庭の実のひとり待つ	田鶴子
3点 切に濡れるとげぬき地藏冬早	貞勝	4点 雪極きの人を見下ろす雪の壁	明美
2点 グローバルの気象異変や春を待つ	溪水	成人を迎えし孫の手の美しき	文枝
6点①序列なき石仏白き雪帽子	梅乃	2点 飛訪せし蜜柑ドロボーご自由に	田鶴子
1点 大寒や一着着込み待ちにけり	真三		
1点 すき間なく蒼天つかい桜舞う	みさ	(特選◎無しの方二人おられましたこと付記	
夫と二人咳する義父を車乗せ	美紀子	いたします)	

得点順

十点

海からの風にまつすぐ野水仙

安中 忠夫

(以下省略)

九点

③ 鬼やらいどよめきつれて力士来る

野上 貞勝

② 石地蔵胸一線のひび寒し

佐渡谷秀一

八点

① 生きてゐる痛みのひとつ木の芽雨

増田 守

① 真似ごとに終ふも安堵の鬼は外

藤本 友子

野猿凍て羅漢の像に塊れり

秋山 佳史

七点

① 天を突く力のありき冬木立

岩崎 真三

① 兼飲むだけの日課や寒の入

佐渡谷秀一

① 薄凍てて赤と緑の航路灯

古野 明美

生き急ぐやうや日暮の牡丹鷲

増田 守

六点

② 梅日和歩幅合せる夫の居て

小川名梅乃

② 棟上げや幣ひらひらと春の鶯

野上 貞勝

① 冬空や泣きこと言えぬ明るさよ

瀬戸 溪水

① 序列なき石仏白き雪帽子

小川名梅乃

豆の香の甘き指先味噌を搦く

稲葉 幸

五点

① 初針や卒寿の叔母の鼻眼鏡

稲葉 幸

嚴冬や古道の櫓じんと立つ

岩野ヤエ子

四点

② 独楽廻す爺の手先に円らな目

平井 与史

① 建国日靴新しく下ろしけり

佐渡谷秀一

春の雪地に着くまでが夢の中

小川名みさ

コンパクト開けば春空小鳥来る

小川名梅乃

よき日てふ今朝の占ひ春立ちぬ

藤本 友子

雪掻きの人を見下ろす雪の壁

古野 明美